

お元気ですか

2026年7月 210号



発行所 (福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター
〒231-8482 横浜市中区桜木町1丁目1番地
横浜市健康福祉総合センター9階
☎045-681-1211(代表) ☎045-680-1550
🌐<https://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/>
編集発行人 内嶋 順一

横浜市 障害者支援センター

🔍 検索

障害者支援センターの
ホームページはこちらから



令和8年 感謝の集いを開催しました

令和8年2月14日(土)に、令和8年感謝の集いを開催しました。
横浜市社会福祉センター4階ホールにて156名の方にご参加いただきました。
当日の様子をお伝えします。

“永年にわたり、物心両面から関係団体にご支援・ご協力いただいている方々や団体へ感謝の意を表する機会”として実施しているものです。今年は27名1団体が受賞され、第1部で内嶋センター長より感謝状を贈呈しました。

第2部では、障害のある方々のダンスチーム「チーム・MAJI☆スエット」の皆さんによるダンスと、盲学校専攻科で学びながらハープ奏者として活動されている[YURI]さんによるハープの演奏が披露され、会場を盛り上げていただきました。



チーム・MAJI☆スエットの皆さん



YURIさん

内嶋センター長の挨拶 (抜粋)

先日、食事をした際、車いすの方に対する席の配慮や、嚙下に配慮したメニュー、それを作ったシェフによる口に合うかどうかのご本人への確認等の対応を見ました。特別支援学校の先生からも旅行に出かける際の移動や宿泊についての細やかな配慮について耳にします。このような合理的配慮については障害者差別解消法によるものだけではなく、なにより障害のある方が社会に出て課題を見える化する、その努力があったからこそだと思います。そうした障害のある方の社会進出は、本日お集まりの皆さんによる長年に渡る支援のおかげです。日頃の感謝を申しあげるとともに、これからも障害当事者の社会進出にお力添えをお願いします。皆が笑顔で楽しく過ごせる世の中をともに作っていききたいと思います。本日はおめでとうございます。



福祉バス「あおぞら」でお出かけしませんか？

障害者支援センターでは、市内の障害当事者団体・施設などが外出・行楽に出かけるときに利用できる、福祉バス「あおぞら」を運行しています。



例えばこんなときに…



- ・障害児者団体会員の研修旅行
- ・地域活動支援センター作業所型等のレクリエーション事業として社会見学
- ・障害児のレクリエーションとして動物園に行くとき
- ・リハビリ教室の外出訓練としてハイキングに出かけるとき



ご利用にあたって

ご利用には団体登録が必要です。

登録および予約の詳細については、下記にお問い合わせいただくか、二次元コードからご確認ください。

〈電話〉045-201-2049 〈メール〉bus@yokohamashakyo.jp

〈受付時間〉月～金曜日 9:00～17:00 ※土日祝および年末年始は除きます。



〈福祉バスHP〉

料金改定のお知らせ

関東運輸局による貸切バスの基準額の改定により、令和8年4月1日より以下の金額に変更となっています。

	時間制運賃 (1時間あたり)	キロ制運賃 (1kmあたり)	添乗員料金
1～4号車	7,700円	170円	22,000円
5号車	6,400円	150円	—



ハートメイド通信

お問い合わせ

障害者支援センター ハートメイド担当

☎ 045-681-1131 ※平日9:00～16:00

Mail heartmade@yokohamashakyo.jp



ハートメイドカタログ 2026.4～2028.3 4月に改訂版発行

横浜市内の地域作業所等に通う障害のある方々が、心を込めて作り上げた商品を掲載した通販カタログです。

お菓子・日用雑貨・アクセサリー等300種類以上の商品が掲載されています。

誕生日や記念日のプレゼント、イベントの景品、ご自分へのご褒美などいろいろな場面で活用できます。ぜひ、カタログをご覧ください。

カタログは無料送付いたします。お電話またはメール・ファックスにてご連絡ください。





ぼくの わたしの すきなこと

「第2作業所わっか」で加藤さんはカフェ運営と受注作業、伊藤さんは野菜の収穫と袋詰めやポストिंगの仕事を丁寧に行っています。

加藤さんはお仕事が好きです。そのなかでも、接客がとても丁寧で得意としています。熱心に仕事に励む中で、息抜きとして月1~2回地区センターや地域ケアプラザでポッチャを楽しんでいます。一昨年の



畑で作業をする伊藤さんと加藤さん

のパラリンピックでポッチャを見て、「自分もやってみたい!」と思い、始めたそうです。ポッチャはとても奥が深く、投げるときの力加減が重要だとか。点を沢山取ったときや勝ったときにとっても嬉しいと感じるそうです。

第2作業所わっか

かとう えり いとうかいせい
加藤恵理さん、伊藤快晴さん

伊藤さんは、農作業やポストイング等野外活動が好きです。中学生の頃からアニメや映画を見るのが好きで、月1回映画鑑賞に行き、リフレッシュしています。映画鑑賞に行った際は、お気に入りのパンフレットやグッズを購入し、部屋にコレクションしているそうです。

この日も大切にしているコレクションの一部を見せてくださいました。

次に見に行く映画もすでに決めており、今から楽しみにしているそうです。

加藤さんからポッチャの魅力をきいて、伊藤さんも今後やってみたいと意欲が高まり、2人でポーズをとってくれました。



(左) 加藤恵理さん (右) 伊藤快晴さん

横浜あゆみ荘 企画事業

「障害のある方のための ヒップホップダンス教室」

令和8年2月22日(日) 横浜あゆみ荘にて「障害のある方のためのヒップホップダンス教室」を開催しました。対象は横浜市内在住で障害のある高校生以上の方で13名の方が参加してくださいました。講師はダンスインストラクターのANN先生に務めていただきました。教室は終始ハイタッチが頻繁に飛び交うような明るい雰囲気です。ダンス経験の有無に関わらず素敵な笑顔で参加してくれました。



ANN先生へのインタビュー

例年講師を引き受けて下さっているANN先生は今年度のダンス教室について、毎年来てくださる方がいることの安心感や初めての方がいることでアプローチの勉強になることを話して下さいました。ANN先生はダンス教室を開催するにあたり、「理想は障害者・健常者と一緒に教室を開催することだが、それぞれに良さやタイミングがある」とその人に合ったレッスンをカスタマイズしていくことができるダンスの可能性についても話して下さいました。



せや福祉ホーム 『地域交流ポッチャクラブ』

せや福祉ホームでは約1年前から地域の子どもから大人まで参加できる「ポッチャクラブ」を月一回開催しています。夕方4時になると小学生たちが元気に集まり、横浜ラポールスポーツ指導員、熊谷俊介さんのかけ声のもと、子どもたちとホームの通所者さんが混ざったチームに分かれます。ボールを投げるのが難しい通所者さんはランプという道具を使い、子どもたちは姿勢を低くして方向を一緒に確認します。(下写真)



通所者さんと子どもたちが協力して戦略を考え、熱いゲームが繰り広げられます。

参加している横浜市立相沢小学校の子どもたちは、以前、授業の一環でホームを訪れインタビューをした経験があります。当時は通所者さんの特性などホームについて知らないことが多かったものの、ポッチャクラブに通ううちに理解が深まり、今ではホームの通所者さんが楽しめるレクリエーションを自分たちで考え、ゴルフや風船バレーと一緒に楽しんでいます。ホームの担当職員宮崎さんは「子どもたちが興味を持ち、自分たちで一生懸命考える様子が感じられ、本当にうれしい」と話してくださいました。お近くの方は、ぜひ一度、せや福祉ホームでポッチャを楽しんでみませんか。



「障がいのあるお子さんとそのご家族の写真展」を開催しました

障害のある方の存在や、日々の暮らし、ご本人やご家族の思いなどを、市民の方に知っていただき、理解を深めていただくことを目的として、令和8年3月13日(金)・14日(土)の2日間、クイーンズスクエア横浜1階のクイーンズサークルで写真展を開催しました。

フォトグラファーの後藤京子さんによる、家族のかけがえのない幸せの瞬間を撮影した写真(家族からのメッセージ付)を中心に、障害のある方の日常生活や仕事の場面を捉えた写真などを



展示しました。

たまたま通りがかりに興味を持たれた方、チラシを見て来られた方など、2日間で約900名の方が観覧されました。展示写真に写っているお子さんが、ご家族と一緒に成長された姿を見せてくれたり、ご来場者からのメッセージや「いいね!」の声を掲示したり、温かい交流の場となりました。

ご来場者からは「写真の笑顔にパワーをもらった」「考えるきっかけになりました」「共生社会の実現を」「社会全体で支えていく環境を」など寄り添う声と共に、社会への提言など様々な声をいただきました。

